

いい声 いい顔 いい心

主幹だより No.3 2

文責：城

持久走大会

絶好の気候のもと、持久走大会が行われました。父母だけでなく、祖父母の方々もたくさん応援に来られていて、子供たちを後押ししたことでしょう。その頑張りが、自己新記録が出た人が多かったり、本番は歩かなかったりといったことにつながっていました。取組期間の短さは今後の課題ですが、今後も粘り強く頑張る子供を育てていきたいものです。指導や当日の役員お疲れさまでした。



人権集会

人権集会に向けた指導もありがとうございました。発表によって各学年で学習したことがよく分かりました。学習で大事にしたい部分をしっかり伝えようとしている



【低学年】



【中学年】



【高学年】

子供たちでした。大事なのは「人権感覚が磨かれ、人権意識が高まり、人権尊重の行動化につながっているか」です。その点に注目した振り返りをお願いします。残念ながら、感想交流では「自分との重ね」で発言する子供はほとんどいませんでした。「自分もこんな経験をしたことがある。その時、心の中に〇〇な思いがあった」「あの時の思いと重なった。だからこそ許せないと共感できる」等々、「自己解放ための人権学習」に結びつけてほしいのです。今後も全ての教育活動を通して推進していきましょう。

EWT

三岳・平小城の子供たちとも一緒に学習した



「English World Tour2022」。コミュニケーション能力の育成を図りながら、外国の文化や生活の様子を知り、日本の良さを伝える機会となりました。子供たちの笑顔や反応（ちょっと恥ずかしそうにしているところも、またかわいい）がよかったですね。「伝えることができた？」と問う私に、「はい!!」と満足げに返す子供の姿がありました。

ますますグローバル化する社会を生き抜いていく子供たちです。素敵な経験となったことでしょう。計画・運営してくださった高木先生、スタッフとして協力いただいた先生方ありがとうございました。

～ティータイム～

「マイ作戦」

子供たちが頑張った持久走大会。我が子もそうだ。自分も40年前はそうだった。ただ、その作戦(?)は人それぞれのもので・・・

小中学生の頃は、とにかく負けず嫌いだっただけ。座右の銘は「根性」だった。自分の作戦は、「とにかく先頭の子の後ろにびったりついて、プレッシャーを与え続ける作戦」。心身ともに削られたラスト数十メートルで鬼のスパートをかけ抜き去る」というものだった。

息子(小3)は、「最初だけ1位でくるけん、写真に撮っという作戦」。そう、最初だけ異常に速い、大会に必ず見かける子の一人だ。公言通り、最初は1位だった(結局、最終結果は4位)。

娘(小1)は、「唯我独尊作戦」。友達の走りなんて眼中にないとばかりに、スタートからゴールまで、自分の走りを貫くのだった。ただ、自分の限界を超えようという意識はあまりない。MAXの力を出せば大会新記録だったのに・・・。

ちなみに妻は、後ろから追い抜こうとする友達がいたら、す〜と道をあける「競争意識ゼロの優しい人」だったそうだ。

今の自分は・・・走ろうとさえ思わない。(校長先生はすごいですね)先生方は小学生時代、どんな持久走の作戦を実行していたのだろうか。



